

サクランボ特報 No 4

4月下旬に高温となり開花期間が短く、園地によって結実に差がでております。実が少ない場合には摘果作業は見送り、花カス落としや新梢管理を実施しましょう。

1. 今後の管理

* 摘果・結実が確定してから

結実状況確認後(生理的落果終了後)摘果の実施。1 花束状短果枝 3~4 果程度として、果実が密着しないようにする。また、樹勢や日光の入り具合をみて加減し、強樹勢樹・佐藤錦等は裂果防止・適樹勢維持のため着果はやや多目にする。

* 新梢管理(主幹形の場合)

・摘芯：満開から2~3週間頃から始める目安となります。6芽程度(4~5枚)または、基芽を残して新梢を摘芯する。

尚、樹勢を判断して強い新梢は若干長めに残し、徒長枝や枝が繁茂している箇所を中心に実施する。

・誘引：落ち着いた短果枝を確保する。徒長枝になりそうな強い枝は誘引し花芽着生を促す。

* 着色管理(樹上部の果実が着色し始めた頃の作業)

・葉つみ、葉上げの実施(過度の葉つみはしない。陰になりやすい場所を中心に)収穫予定の7日~10日前頃から果実に直接かぶさる葉を摘む。あるいは、輪ゴム等により葉をまとめ上げる。(葉上げは雨除けハウスで行う。露地は実施しないー裂果)

・反射マルチの利用ー白色マルチではタイベック、パールライトなどがあります。

・雨よけ施設の被覆 5月下旬(生育は昨年よりやや早くすすんでおります。)

2. 薬剤散布(未成木も実施)

・隣接する園地や他作物にはかからないようにする。

* 散布時期 5月中旬(16日~20日)頃

* 散布薬剤(水 100ℓ当り)

散布日	月	日	散布量	ℓ

オンリーワンフロアブル 50ml (前日、3回)

テルスターフロアブル 33ml (前日、2回)

* 対象病害虫：灰星病、炭そ病、ショウジョウバエ類、ハダニ類

* 散布量：10a当り SS 500ℓ 動噴600ℓ

* 注意事項 ①今回から収穫終了まで展着剤は加用しない。

②肥大中期までの散布、汚れに注意する。

③黒斑病発生園は、ベルコートフロアブル 1000 倍(7日前、3回)を加用散布する。

④カイガラムシ類の発生が多い場合は、アプロードフロアブル 1000 倍

(7日前、2回)を枝・幹にていねいに散布する。ー収穫前使用時期注意。

⑤ナミハダニの発生が心配される場合は、コテツフロアブル 2000 倍

(14日前、2回)を加用散布する。

* 散布の際、飛散(ドリフト)がないよう注意しましょう。